2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>プロジェクト目標： ヘルスセンターが建設され、無償のCHWによる公衆衛生および疾病予防に関する知識の啓発、適切な保健医療サービスの照会</p> <p>2つの再定住地にてヘルスセンター(以下HC)の建設が完了し、運営されている。また無償のコミュニティヘルスワーカー(以下CHW)180人が育成され、彼・彼女らによって地域住民へ適切な保健医療サービスへの照会が行われている。</p> <p>事業開始前に対象地域で提供されていた保健医療サービスの利用者数に対し、HCを2つ建設した結果、HCの訪問者数が161%増加した事を確認した。これにより、上位目標である「ニヤマトンダ郡のデンジャ再定住地、クラ再定住地およびそれらの周辺地区の住民が常時保健医療サービスにアクセスできるようになり、より良い健康状態を維持できる。」を達成するための環境を整えた。</p>
(2) 事業内容	<p>活動1：ヘルスセンターの建設と整備</p> <p>1.1. 関係各所との調整と建設準備を行う。</p> <p>1.1.1. 現地政府との調整と建設会社との契約締結を行う。 ソファアラ州保健省と覚書を締結し、HC建設期間中の建設モニタリングへの協力、建設後の医療従事者の配置、および施設の維持管理について合意を得た。建設に向けての協議を同省と進めていた際に、HCの図面に関して一部変更を提案された(詳細は別紙参照)。当変更承認申請が承認された後、建設会社と契約を締結し建設を開始した。</p> <p>1.1.2. 建設場所の確定を行う。 建設場所の選定に際し、ソファアラ州保健省担当者およびニヤマトンダ郡保健局の職員と共に建設地の視察を行い、所有権に問題がなく、かつアクセスの良い建設地を選定した。更にJICAモザンビーク事務所の防災事業担当者より事業地の災害リスクについて情報提供を受け参考にした。</p> <p>1.1.3. 資材と備品を調達する。 建設資材は建設会社が調達し、HCの備品は当団体が直接調達業者を選定し、調達した。</p> <p>1.2. 建設・進捗管理を行う。</p> <p>1.2.1. 建設工事と進捗管理を行う。 建設期間中はプロジェクト・オフィサー(ヘルスセンター建設事業担当)が週2-3回の頻度で現場を訪問し、進捗管理及び現場指揮を行った。</p> <p>1.2.2. 現地行政の専門家によるモニタリングを実施する。 月1回の頻度で譲渡先であるソファアラ州保健省のエンジニアと共に、建設現場のモニタリングを実施し、現地政府の基準や図面通りに建設が実施されているか詳細を確認しながら建設を進めた。</p> <p>1.3. ヘルスセンターの引き渡しを執り行う。 2つのHCの建設完了後、各再定住地にて現地政府への譲渡式を執り行った。</p> <p>活動2：無償のCHWの育成</p> <p>2.1. トレーニング前期の準備と実施を行う。</p> <p>2.1.1. トレーニング参加者対象の知識レベルチェックテストを作成する。 前期研修の効果を測るための知識レベルチェックテストを作成し、前期研修の初日と最終日に実施した。</p> <p>2.1.2. 政府との調整を行う。 ソファアラ州保健省と覚書を締結し、CHW研修への協力および当事業完了後のCHW活動の管理について合意を得た。</p> <p>2.1.3. トレーニング参加者の募集と選定を行う。 現地政府と協議の上、受講者のジェンダーバランスやコミュニティリーダーとの血縁・利害関係が無い事などを確認し、CHW研修の参加者を200人選定した。なお、現地政府より最新の人口データを入手し、それを基に各再定住地の育成人数を更新した。(詳細は別紙参照)</p>

- 2.1.4. トレーニング前期を実施する。
 ニヤマトンダ郡保健局より講師を招聘し本事業プロジェクト・オフィサー(CHW トレーニング事業担当)監督の下、5日間の前期研修を実施した。
- 2.1.5. 知識レベルチェックを実施する。
 最終日に参加者200人に対して知識レベルチェックテストを行い、CHWとして活動する基準を満たした189人のうち、上位180人を育成対象として選出した。基準を満たさなかった11人には、基準を満たすまで再テストを実施した。
- 2.2. 家庭訪問とモニタリングを実施する。
- 2.2.1. 住民の知識レベルを測るKAP調査を作成する。
 対象地域の住民の公衆衛生および疾病予防に関する知識レベルを測るためのKAP調査に使用する質問票を作成した。
- 2.2.2. 無償のCHWによる家庭訪問の実施を監督する。
 家庭訪問に必要な備品をCHW180人へ配付し、週2日の家庭訪問活動を開始した。当活動の詳細および現地政府への働きかけについては別紙に記載する。
- 2.2.3. 住民にKAP調査を実施する。
 家庭訪問開始時と後期研修前に、CHWが住民の公衆衛生および疾病予防に関する知識レベルを測るためのKAP調査(ベースラインおよびミッドラインKAP調査)を実施した。
- 2.3. トレーニング後期の準備と実施を行う。
- 2.3.1. トレーニング後期のカリキュラム、トレーニング前後の知識レベルチェックテストと最終評価を作成する。
 各家庭の健康状況の調査により収集した情報を基に、対象地域で実際に症例の多い疾病を把握し、郡の保健局と後期研修のカリキュラムおよびCHWの知識レベルチェックテストを作成した。また、事業終了時に実施する最終評価項目の内容と評価実施方法についても策定した。
- 2.3.2. トレーニング後期を実施する。
 郡の保健局より講師を招聘し、プロジェクト・オフィサー(CHW トレーニング事業担当)監督の下、CHW180人に対し2日間の後期研修を実施した。なお、既に対象地域で活動している有償・無償のCHWも後期研修に招待し、同地域で症例の多い疾病とその予防について共有した。
- 2.3.3. 知識レベルチェックを実施する。
 研修の初日と最終日にCHWの知識レベルチェックテストを実施した。後期研修の内容も含めCHWとして活動する基準を満たしたCHWが、180人のうち129人(72%)から162人(90%)に増加し、後期研修の直接的な効果を確認した。
- 2.4. 家庭訪問とモニタリングを継続する。
- 2.4.1. 無償のCHWによる家庭訪問の実施を監督する。
 後期研修後も家庭訪問を継続し、週2-3日の頻度でプロジェクト・オフィサー(CHW トレーニング事業担当)が抜き打ち形式で家庭訪問同行および指導を行った。(家庭訪問活動の詳細については別紙参照)
- 2.4.2. 住民にKAP調査を実施する。
 後期研修後および当事業終了直前に、CHWが住民の知識レベルおよびCHWの成果を測るためのKAP調査(エンドラインKAP調査)を実施し、89.1%の住民の公衆衛生および疾病予防に関する知識・態度・行動が改善された事を確認した。
- 2.5. 最終評価を実施する。
 育成したCHWの知識と能力を測るためのテストを、ニヤマトンダ郡保健局と作成し実施した。その結果と住民へのKAP調査の結果をCHWに伝え、彼らの活動の意義やコミュニティでの立ち位置を改めて認識するよう働きかけた。

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>以下の成果1・2を達成した事を確認した。達成度を測る指標を用いた成果の詳細は別紙に記載する。</p> <p>成果1：対象地においてヘルスセンターの建設・無償のCHWの配置がなされ、受益者の保健医療サービスへのアクセスが向上する。</p> <p>対象地域でHCが建設され、CHWが家庭訪問活動を実施することにより、住民の保健医療サービスへのアクセスが向上した。また、これにより「持続可能な開発目標（SDGs）」の「目標3：すべての人に健康と福祉を」に直接的に貢献し、保健医療サービスという面で、「目標10：人や国の不平等をなくそう」および目標11：住み続けられるまちづくりを」の達成にも貢献したと考えられる。</p> <p>【指標】</p> <p>① 新設するヘルスセンターの訪問者数が、本事業開始前において現地で提供されている保健医療サービスを利用する者の合計数を上回る。</p> <p>建設したHCの訪問者数が既存の保健医療サービスの利用者数を161%と大幅に上回る結果となった。</p> <p>② 「必要な時に必要な保健医療サービスを受けられる」と認識している受益者の割合が増加する。</p> <p>無作為抽出した405人の住民へ実施した調査で、34.3%増加したことを確認した。</p> <p>成果2：無償のCHWの育成・能力向上がなされ、住民に適切な保健医療サービスが照会され、また彼らの活動によって、住民の公衆衛生および疾病予防に関する知識が向上する。</p> <p>対象地域でCHWが育成され、家庭訪問活動を実施した事で、住民の公衆衛生および疾病予防の知識が向上した。これにより「持続可能な開発目標（SDGs）」の「目標3：すべての人に健康と福祉を」の達成に貢献した。</p> <p>【指標】</p> <p>① 事業完了時、事業地の住民である受益者の80%以上が「無償のCHWの家庭訪問により、公衆衛生および疾病予防行動の促進・適切な健康医療サービスの紹介がなされている」と認識している。</p> <p>事業終了時に無作為抽出した405人の住民へ実施した調査で①の達成を確認した。</p> <p>② 事業終了時、全トレーニングの受講を完了した無償のCHWのうち80%以上が求められるスキルと知識を維持している。</p> <p>事業終了時の最終評価により、85%のCHWがCHW活動に求められるスキルと知識を習得した事を確認し、目標を達成した事を確認した。</p> <p>③ 無償のCHWの活動開始後、受益者の80%以上の公衆衛生および疾病予防に関する知識・態度・行動が改善される。</p> <p>無作為抽出した405人の住民へ実施したKAP調査で、89.1%の住民の③の達成を確認した。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(1) ヘルスセンターが整備されている</p> <p>建設前のHCの図面選定、建設地選定、覚書締結から建設中のモニタリングに至るまで、現地政府と共に実施・決定した。これに加え、HC建設後の現地政府へのスムーズな譲渡および事業終了後の適切な施設運営のモニタリングと維持管理体制を整えた。また、建設するHCには同地域で勤務する医療従事者が配置されるため、彼らと当事業で育成するCHWの関係構築を行い事業後も連携がされる。以上の取り組みにより施設が継続して維持管理される体制を整えた。(詳細は別紙参照)</p> <p>(2) 無償のCHWが再定住地の住民に公衆衛生及び疾病予防の知識の啓発、新設のヘルスセンターを含め、適切な保健医療サービスの紹介を継続的に行うことで、裨益者が保健医療サービスへアクセスできる。</p> <p>育成したCHWが継続的に活動を続けられるよう、前期・後期研修を通して、CHWの活動の意義や役割、その重要性について強調し、彼・彼女らが当事者意識やリーダー意識を身に付けられるように努めた。更に現地政府がCHW活動を把握できる体制を整えた。以上の取り組みにより事業終了後もCHW活動の継続的なモニタリングおよび促進ができるようにした。(詳細は別紙参照)</p>